

令和4年度の学校評価（評価結果と課題）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凛として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。また、職員間の協力体制の在り方を検討し、勤務時間の適正な管理と教職員の適切なメンタルヘルスに努める。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり 4 教職員の健康維持に配慮した体制づくり		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	(1) 防災体制の構築と、防災意識の強化。 (2) P T Aの連携の在り方の考察と推進。	(1) 従来の防災教育・防災対策に加え、防災講話などを取り入れ、震災など自然災害をより身近な問題として捉えられるよう、生徒、保護者、教職員の防災意識を向上させる。 (2) SNSなどの活用を含めたP T Aの連携体制を作る。	(1) 豊橋市防災危機管理課の職員による防災講話を行い、地震への心構えを確認できた。災害時における対応や安否確認の方法について防災避難訓練等を通し確認した。 (2) コロナ禍の規制緩和を受け、規模を縮小しながらも、ほぼ年間計画に沿った活動を行うことができた。
教務部	(1) 新校務支援システムの活用の研究。 (2) 効果的な評価・評定の活用。	(1) 新校務支援システムの活用による、校務のスリム化に向けた検討をする。 (2) 新指導要領における観点別の評価・評定の基準を明確にし、生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつける。	(1) 新校務支援システムの使用方法など、こまめに情報を示しスムーズな活用につながった。 (2) 評価・評定について、明確な基準のもと、効果的にできるように工夫した。
進路指導部	(1) 生徒の進路目標の確立と実現に向けての指導。 (2) チームとしての進路指導の推進。	(1) 生徒の進路意識を向上させるため、日頃より進学に関する情報収集に努め、教職員と共有を図る。また、生徒の高い進路目標に向け、基礎学力のさらなる充実を図る。 (2) 地域との連携を推進する。また、保護者向け進路説明会や保護者会を行い、保護者との連携を充実させる。	(1) 進路行事や担任面接を通して、生徒の進路意識を刺激し、高い進路目標をもたせることができた。 (2) 保護者向け進路説明会には、平日の午後にも関わらず半分以上の保護者が参加され、進路意識の高さが実感できた。一方、進路情報の発信は十分でなく、生徒、教員が情報を共有できるようにしていきたい。
生徒指導部	(1) いじめ防止対策。 (2) 高校生らしい身だしなみと交通安全意識の向上。	(1) いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 (2) 各月の身だしなみ指導の設定と交通モラル及び自転車乗車ルールの遵守を図る。	(1) 教員の生徒観察や学年会情報、担任面接、保健厚生部の「心のアンケート」などを利用して情報の共有を心掛け、協力体制を構築することができた。 (2) 集会や指導部からの発信が少なく身だしなみの校内指導の充実につなげることができなかった。また交通指導を充実させ、多くの生徒に声をかけるよう、全職員で協力できるように努めたが継続が必要である。
情報研修部	(1) ICTを活用した授業展開と校務での積極的な利用を進める。 (2) 図書館の蔵書の充実と有効利用。	(1) 教員のICT活用に有効な研修を企画し、実施する。 職員チームの有効利用を推進する。 (2) 図書館の蔵書点検を実施し、蔵書の整理を行う。図書館だよりや館報を通じて生徒に図書を紹介をする。	(1) ICTを活用した授業を行う教員が増えてきた。職員チームは一部の学年、教科等で活用されている。 (2) 夏休みに蔵書点検を実施した。生徒の興味・関心にそった図書を積極的に購入した。
保健厚生部	(1) 生徒保健委員会活動の活発化 (2) 生徒全体の健康や清掃に対する意識の高揚。	(1) 教室の換気や手洗い徹底させ、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防を図る。 (2) ゴミの分別の徹底およびゴミの減量化を図る。また、環境美化に努める。	(1) 保健委員が中心となり、換気・手洗いなど感染症予防を図ることが出来た。また、文化祭等の行事において積極的に活動することが出来た。 (2) 雨天中止のクラスもあったが、クラス単位での奉仕活動を通して学校全体で環境美化に取り組むことが出来た。また、ゴミ分別を啓発し、日々実践させ、清掃の徹底を図ることが出来た。
【特別活動】	(1) 生徒会を主体とした校内外の体験的な活動への積極的参加。	(1) 学校行事への取組意欲を高めさせ、生徒自身が積極的に行動するようにさせる。 ボランティア活動への積極的な参加を促す。	(1) 文化祭実行委員、文化・運動常任委員、HR役員の積極的な活用を行う。ボランティア意識を高めさせ、募金活動への積極的な参加を促した。
【教育相談・特別支援教育】	(1) 教育相談が必要な生徒の情報の共有化と早期の対応。	(1) 欠席の多い生徒の情報を収集し、早期に対応する。相談室の利用を促進する。スクールカウンセラーとの連携を密にする。	(1) 欠席数や学校生活の様子から早期に対応することが出来た。また、スクールカウンセラーや家庭との連絡を密にするとともに、生徒の心身の状態について教員間の情報共有を図ることが出来た。

生活文化科	<p>(1)各コースの特性を活かした魅力ある授業内容の精選。</p> <p>(2)地域と連携・協働したスペシャリストを目指す生徒の育成。</p>	<p>(1)各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。外部講師による講習会を適切な時期に実施し、より専門的な知識・技術の確実な習得を図る。</p> <p>(2)キャリア教育の充実を図り、社会人・職業人として必要となる基礎的・汎用的能力を身につけさせる。インターンシップにおいて、事前・事後の学習に力を入れ、成果発表会を実施し、生徒のキャリア形成と関連づけさせる。</p>	<p>(1)3年間で選択コースにより、5～8種目の資格取得を目指しており、第1学年から基礎的・基本的な知識・技術の定着を図り、応用へと発展させることで、合格に結びつけた。外部講師による講習会を14講座実施した。今後もより専門的な知識・技術の習得を目指す。</p> <p>(2)高大連携事業やインターンシップ等の活動にのべ235名、実人数255名が積極的に取り組んだ。今後もインターンシップを充実させ、生徒の望ましい勤労観・職業観の育成を図りたい。</p>
第1学年	<p>(1)規則正しい生活習慣と規範意識を確立させる。「気持ち良い挨拶と掃除のできる学年」を目標とする。</p> <p>(2)学習習慣を確立させる。</p> <p>(3)部活動・学校行事に全力に取り組む。</p>	<p>(1)朝、帰りのST、授業の始めと終わりの挨拶を元氣よくできるようにする。遅刻、欠席、早退をなるべく少なくする。担任会・学年会で共有し、クラス・学年集会等で呼びかける。</p> <p>(2)授業をとにかく大切にする。そのため教科担任と連携し、予習・復習を徹底させる。家庭学習を習慣化させる。</p> <p>(3)特活や部顧問と連携し、生徒が部活動・学校行事に積極的に取り組むことができるように支援する。</p>	<p>(1)担任会・学年会を通じて生徒に呼びかけ、挨拶や掃除に一生懸命取り組むことができた。</p> <p>(2)教科担任と連携し、予習・復習の重要性を伝え、ほとんどの生徒が落ち着いて学習活動に取り組むことができた。</p> <p>(3)特活や部顧問と連携し、生徒の自主的活動を支援することができた。</p>
第2学年	<p>(1)社会人としての基礎力の養成。</p> <p>(2)将来を見通し、前向きに学校生活に取り組むことができる人材の育成。</p>	<p>(1)基本的な生活習慣を確立させる。授業規律を徹底し、教室環境を整備する。</p> <p>(2)進路目標を明確にさせ、学習だけでなく部活動や学校行事にも積極的に取り組ませる。</p>	<p>(1)落ち着いた生活習慣を身につけて生活できた生徒が多かったが、一部身だしなみや規律が守れない場合もあった。環境整備にもおおかた意識をもって生活することができた。</p> <p>(2)多くの生徒が自身の進路を具体的に考え始めることができています。また部活動や学校行事にも積極的に参加し、盛り上げることができた。</p>
第3学年	<p>(1)社会人としての基礎力の確立。</p> <p>(2)個人の能力伸長と進路目標の実現。</p>	<p>(1)基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。社会性や公共心を育成する。</p> <p>(2)学力を充実させ、進路目標を実現させる。特別活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>(1)多くの生徒が、時間を守ることや挨拶などの基本的な生活習慣と規範意識を確立させることができた。HRや清掃活動を通し、社会性や公共心を育成することができた。</p> <p>(2)土曜学習会に積極的に参加させ、課外などを利用して実力を養い、進路実現に向け実力をつけることができた。学校行事に積極的に参加し、取り組ませることができた。</p>
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域から信頼される学校づくりを目指した方策と実践を行う。 ・特色ある学校作りとともに、地域との連携を行う。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行う。 ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用等を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。 		